

岩波駅周辺地区 まちづくり基本計画を策定



岩波らしい自然と未来技術でつながるまち

令和4年3月に岩波駅周辺地区まちづくり基本計画を策定しました。岩波の地域資源とウーブン・シティなど周辺企業が持つ最先端技術を「つなげる」ことで、みんながワクワクし、20年後の未来を創造できるまちづくりを目指します。

☎ ウーブン・シティ周辺整備課 994-9010

岩波駅周辺地区の現状

- ①岩波駅前には駅前ロータリーや駐車場がなく、車と人の動線が交錯している状況です。
- ②富士見橋付近の市道は、岩波駅と周辺企業を結ぶ動線です。朝夕は通勤・通学者で混雑し、歩行者が車道を歩かざるを得ない状況になっています。
- ③国道246号の2カ所の横断歩道橋は、岩波駅から周辺企業へ向かう通勤者等が多く利用しています。
- ④国道246号の東側には、民間企業の社宅と共に樹林地や黄瀬川、久保川の豊かな景観を有する広大な緑地空間があります。
- ⑤岩波駅周辺には、子育て支援や商業、金融、医療など生活サービス施設が不足している状況です。

市民の想い（岩波駅周辺地区まちづくりワークショップ）

岩波駅周辺地区の整備について、まちづくり方針（まちの将来像）をまとめるために、地域住民や周辺企業の方々と意見交換を行うワークショップを開催し

ました。

岩波駅周辺地区の良いところは、黄瀬川や富士山の景観を挙げる声が多くありました。この地区の気になるところは、歩道が狭いことや、まちの賑わいが少ないことだと考える人が多くいました。

良いところを伸ばし、気になるところを改善するアイデアは、基本計画へ反映しました。

短期整備計画

短期整備計画は、10年後の完成を目指し整備を行うものです。「暮らしやすさの実感とまちの魅力創出」を目指し、主にウーブン・シティの一部オープンを見据えながら安全・安心の向上、交通結節点機能の強化、黄瀬川沿いの区域での魅力の創出・情報発信等を図る取組を中心に整備を進めていきます。

短期整備計画では、概算事業費を130～170億円と見込んでいます。財源は、国の補助金のほか、企業版ふるさと納税を活用していきます。

まちづくりの基本方針

基本方針1：北部地域の拠点に相応しいまちづくり

「安全安心の向上、公共交通の充実、交通結節点機能の強化」

基本方針2：岩波の魅力を活かしたまちづくり

「自然や地域資源、未来技術、優しさ、暮らしやすさ、市民協働、公民連携」

基本方針3：交流の促進と職住近接のまちづくり

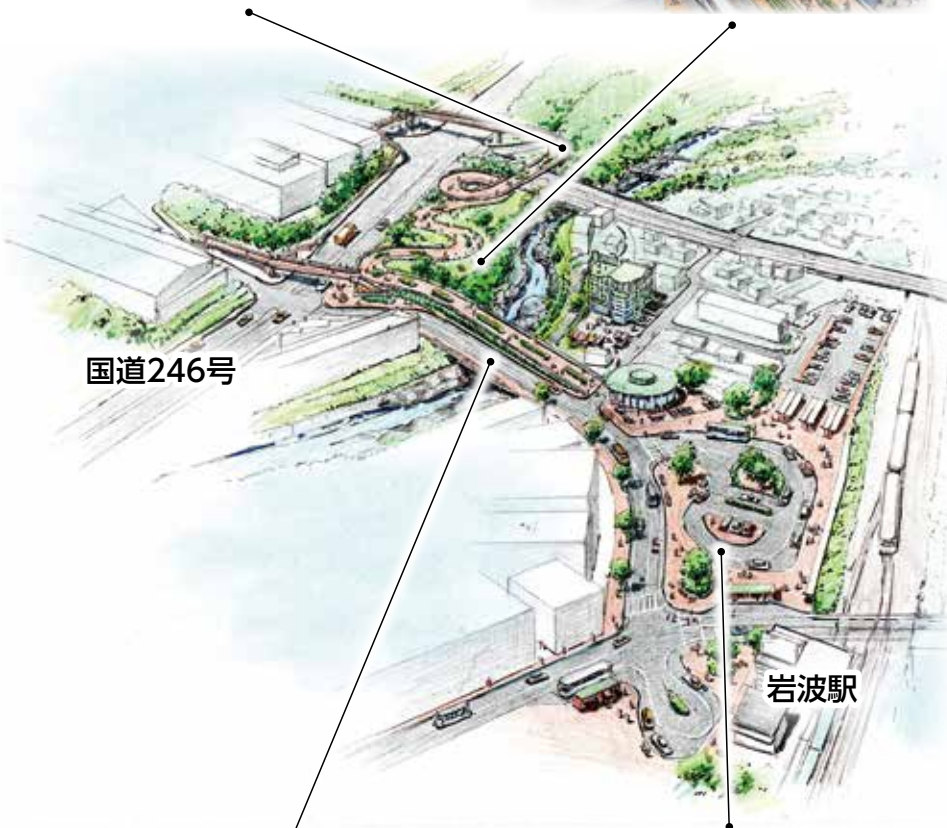
「観光交流の促進、ウーブン・シティの波及効果（地域の活性化）、職住近接のまちづくり」

短期整備計画

横断歩道橋（裾野 I.C 入口交差点）は、岩波駅周辺地区からウーブン・シティにつながる施設です。歩行者や自転車に加えパーソナルモビリティ等の新たなモビリティ等の通行を考慮した空間の整備を行います。



（仮称）黄瀬川緑地公園・交流施設は、市道1264号線の整備と一体的に黄瀬川の景観、眺望と豊かな自然にふれる空間として整備を行います。また、大人から子どもまで様々な人たちが集い遊べることができ、誰もが憩える場所として整備を行います。



歩行者と車両が交錯する交通状況を改善します。また、利用者がイベントを開催できるように広い歩道空間を確保し、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを目指します。



岩波駅前交通広場は、市民や周辺企業への通勤者だけでなく観光客などの多様な利用が想定されます。市における北のゲートウェイとして、誰もが利用しやすい場所を目指します。

ワークショップ参加者に聞く 岩波駅周辺のまちへの期待

岩瀬 隼人さん
（岩波）



友達と遊ぶときに市外に行くことが多いので、友達と集まることができる岩波のまちになってほしいです。

ワークショップに参加することが自分にできることなので、みんなに誇れるまちにしていきたいです。

松本 和真さん
（市内企業勤務）



ワークショップへの参加を通し、岩波駅周辺の良さを再認識する事ができました。

最先端技術を活用し、便利な暮らしを追求する事も必要だと思いますが、富士山や黄瀬川の景観のような「岩波駅周辺の良さ」を大事にしたまちであってほしいと思います。

岩波駅周辺地区 まちづくり ワークショップ

令和3年度に6回開催し、令和4年度には8回の開催を予定してる話し合い。約40人のメンバーが、岩波駅周辺地区の機能や賑わいについて、熱く語り合っています。